

# 静岡県の学校図書館

平成 25 年 9 月 発行  
静岡県総合教センター  
生涯学習推進室

## 学校内外の 協力体制

～学校図書館の活性化  
をめざして～

学校図書館は、児童生徒の創造力を培い、学習に対する興味・関心等呼び起こし、豊かな心を育む自由な読書活動や読書指導の場である「読書センター」としての機能と、児童生徒の自発的、主体的な学習活動を支援し、教育課程の展開に寄与する「学習・情報センター」としての機能を果たし、学校教育の中核的な役割を担うことが期待されている。特に、学校教育においては、児童生徒が自ら考え、主体的に判断し、行動できる資質や能力などの「生きる力」を育むことが求められており、学校図書館には、様々な学習活動を支援する機能を果たしていくことが求められる。

「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」（平成 25 年 5 月閣議決定）より

学校図書館は、「読書センター」としての機能と「学習・情報センター」としての機能を果たし、学校教育の中核的な役割を担うとされています。そのためには、司書教諭のみならず全ての教職員等が、連携・協力して子どもの読書活動・学習活動を推進していくことが重要になります。今回は、教職員のみでなく、いわゆる学校司書や学校図書館ボランティア等も受講できる総合教育センター主催の学校支援出前講座の様子をお伝えします。

## 学校支援出前講座 — みんなでつくる学校図書館講座 —

本年度の学校支援出前講座は、沼津市と掛川市の2会場で実施しました。

### 【授業で活用される図書館づくり】（沼津市：沼津市立図書館）

伊豆の国市立菰山中学校の司書教諭から、「読書活動の推進における学校図書館運営」と題して実践発表がありました。「楽しむ読書」として、主に読み語りボランティアによる活動の紹介がありました。また、「高める読書」として読書郵便や近隣中学校とのお薦め本の紹介活動の実践発表がありました。さらに「調べて考える読書」として国語科や社会科における調べ学習の実践が紹介されました。いずれも、司書教諭が学校司書や公共図書館と連携し、図書資料を提供することで生徒たちの学びを広げる支援となっていました。



次に東京学芸大学講師渡辺暢恵氏より「授業で活用される図書館づくり」と題して御講義いただきました。渡辺氏の、司書教諭、学校司書としての経験から、学校図書館に関わるそれぞれの立場ですべきことについて考えることができました。講義の最後に渡辺先生の引き込まれるような「ブックトーク」を聴きました。参加者からは「司書になるときに渡辺先生の本をたくさん読みました。人にも本にも愛がある先生のお話を直接聴くことができよかったです。」といった声が聞かれました。

最後に、様々な立場の参加者同士で情報交換のグループワークを行いました。「新刊展示会」や「新聞のスクラップ」等、他校での実践を聞いて明日から、自校で行ってみたいことを見つける話合いとなりました。

## 【今、求められている教育と学校図書館】（掛川市：総合教育センター）

教職員だけでなく、学校司書や学校図書館ボランティアの多数の参加がありました。

東京学芸大学講師であり、全国学校図書館協議会のスーパーバイザーでもある福田孝子氏を講師に、「今、求められている教育と学校図書館」と題した講義を聴きました。講義では、言語活動や探求型学習で学校図書館が果たす役割や、司書教諭、学校司書、ボランティアが連携して取り組んでいる環境整備の事例等が紹介されました。また、各教科の授業で使える図書について、1冊1冊紹介をしながら、活用方法を説明していただきました。お話会での導入の仕方等、明日から使える読書活動のヒントもたくさん学ぶことができました。

講義の後にはグループで情報交換をしました。「授業で使える学校図書館に整備するのが第一」「読み聞かせした本の感想を話に来てくれる生徒がいてやりがいを感じる」等の意欲的な意見が多く聞かれました。本と人をつなぐ役目を担うことの意義を実感した講座となりました。



## 電話やメール、訪問等による支援Q&A

Q



子どもたちが使いやすい学校図書館にするためにはどんなことに気を付けたらいいですか。教えてください。

学校図書館には「読書センター」的機能と「学習・情報センター」的機能が求められます。つまり、子どもたちにとって自由に読書する場であると同時に、調べ学習等、授業で活用する際、必要な資料を手にとることができる場であることが求められているのです。

構造的にはゆったりと読書に親しめる「読書スペース」と一人ずつの椅子が確保され、調べ学習を進めることができる「学習スペース」を設けます。

図書の配架については、日本十進分類法（NDC分類法）により、配架することだけでなく、教科書に出てくる作家やテーマごとのコーナー配架や新着本等のディスプレイなど、随時、変化する配架をすることもポイントです。子どもたちが自分で必要な資料を探ることができるように、分類表一覧や、棚見出しで分類表示をしましょう。分類表一覧は、インターネットサイト「ふじのくにゆうゆうnet」(<http://www.fujiyuyu.net/>)のトップページ「いきいき学校図書館」からダウンロードすることができます。



【読書スペース】



【お薦め本のディスプレイ】

